



続いて、同院初期研修医の影山聡子さんの「私が医師になるまで」の講演が

理事長が「一日楽しんで体験してください」とあいさつがあった。生徒は4班に分かれ、発見者、心臓マッサージ、AEDなど役割を決め、CPR（心肺蘇生）を体験した。

## 興生総合病院

# 「高校生医師体験セミナー」開催

広島県内の生徒16人が参加

（医）里仁会興生総合病院（三原市円一町2-5-1、藤原恒太郎理事長）は8月5日、「高校生医師体験セミナー」を開催した。

広島県内の高校生2年生、3年生の医師志望の生徒16人が参加し、始めに副院長の河野正明医師から説明があり、続いて藤原

あった。影山医師は中学生の時「死体は語る」を読んで法医学を目指し、その後小児科、麻酔科、神経内科にも興味はあったが、現在は病理診断科の道を目指している。講演後、生徒から勉強方法や毎日の過ごし方、専門はいつから決めるかなど質問が相次いだ。

人間ドックのお弁当で昼食をとり、午後からは採血や胃カメラ、大腸ファイバー、心エコーを、手術室では、縫合、腹腔鏡手術、骨折手術、手洗いなどを見学、体験した。

参加者の広島大学福山付属高等学校3年の島津心調さんは「救命医療に興味があり、興生総合病院にはドクターヘリを受け入れるヘリポートがあるので参加しました。医療はチームワークが大切だと学びました。将来は救命医療の現場で活躍したい」と話した。

同院は昨年と一昨年はコロナで体験学習が実施できず3年ぶりの開催となった。参加者は女子生徒11人、男子生徒5人と昨今の医大への男女の合格者数に比例する形となった。